

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぬくもり大杉		
○保護者評価実施期間	2024年12月10日 ～ 2024年12月29日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28 (回答者数)	21
○従業者評価実施期間	2024年12月10日 ～ 2024年12月29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的な会議や日々の振り返りを通して、こどもの個々の課題について共有し、個別支援計画書で共通の認識をもって支援にあたっている。	・送迎時等、相談を受けた内容を事業所内で共有し合い、支援している。 ・保護者とともに現状や課題を確認、事業所の職員内で課題を認識した上で、子どもの将来を（先を見据えて）考え、支援計画を作成している。 ・昼食を買いに行く際や活動（おやつ買いなど）を通じて、社会的なルール（お金を払うなど）を伝えながら自己選択・自己決定の支援が出来るように取り組んでいる。	・引き続き共通の認識をもって支援にあたれるよう、事業所内での会議や業務の振り返りをこまめに行っていく。
2	活動プログラムが固定化しないように工夫している。	・子ども達の意見を幅広く収集し、プログラムの作成に取り組んでいる。 ・事業所内での会議等を通じて日々の活動について事前に確認を行い、子ども達に合った内容であるかを検討した上で当日に臨んでいる。また活動後には業務の振り返りを行い、活動の内容が適切であったかを検討している。	・今後も子どもたちの意見を参考にしながら、事業所内で活動プログラムを検討していく。
3	関係機関との連携を取り、子どもの支援にあたっている。	・相談支援事業所やその他関係機関と連携を取る必要が生じた利用者様について、連絡を取り、必要に応じてケース会議等にも参加している。	・今後も連携して対応が必要なケースについては関係機関と連携を取り、対応していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館、地域のこどもと交流・活動する機会が少ない。	・中高生の利用者が中心となっているため、放課後児童クラブや児童館、地域のこどもとの交流や活動について年齢差が生じている。 ・地域の行事が日曜日や事業所の開所時間外に行なわれていることもあり、参加が難しい面もある。	・以前より保護者から意見が上がっている中に、交流を希望していない声もある。必要性については検討していく。 ・地域のお店に行くなどの活動が利用者の事を知ってもらえる機会と捉えている。今後も企画し、実施していく。 ・あらかじめ町内会のイベントの把握をしておき、参加できそうなものがないか検討していく。
2	家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や家族も参加できる研修会、情報提供の機会等が行えていない。	・アンケートを取り、保護者の皆様がどんな研修会や情報を求めているのか、ニーズをしっかりと把握していく。	・ニーズを把握した上で事業所が主体となり、保護者の皆様同士で交流できる場を提供していけるように今後検討していく。
3	保護者会等の開催による保護者同士の交流の機会が設けられていない。	・アンケートを取り、どんな交流を求めているか、実現が可能なかを含めて確認していく必要がある。	・父母会等、保護者様が主体となって取り組んでいただく会については負担にもなりかねないため必要性の有無も含めてしっかりと検討していく必要がある。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ぬくもり大杉					公表日	2025年 1月 20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		体育館やゆっくり出来るスペースはある。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	1	個サボ、強度の子が多い日は職員配置を多めにとっている。	当日の状況に応じて適切な人員配置が出来る と良い（利用者2人に対してスタッフ4人の日 があった）		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	玄関の5cmの段差を除いてバリアフリー。	構造化は十分といえない。言葉での理解の難しい子への配慮。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	2	机・イスがある事で出来る活動の幅が広がっている。落ち着くスペースもある。	虫の侵入が多め。もう少しこまめに掃除するように気を付けたい。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	更衣室は一人づつ着替えている。着替えのりれ間違え防止にも繋がっている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	定期的な会議を行っている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	年1回以上虐待防止研修を行っている。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1		意識的に個々のスタッフが計画を見ていく必要がある。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1		悠育の概念に沿ったプログラムの立案をチームで行っていきたい。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		子供たちの意見を幅広く収集し、プログラム作成に役立てている。			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1		ICTの力も借りながら共有等をして欲しい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	1		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		本人に合った自己選択、自己決定の方法を絵かタイミングの調整で対応している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2	相談支援事業所との連携は取れている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2		引継ぎのための共有は密に行っていく必要がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	5		※
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	4		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	外出時に出来ている	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4	名古屋市通所支援事業所連絡会へは開催ごとに参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		児童の様子を共有し深く理解するよう努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	5		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	1		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	1		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	5		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	1		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	1		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1		非常勤職員までBCPを周知できていない。全職員へしっかりと周知していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	1	服薬がある際は連絡帳に記載してもらい、情報の共有をはかっている。 事前に服薬の連絡がない場合は保護者と確認を取っている。	飲み忘れを防ぐため、服薬の共有と担当などの細かい部分を決める必要がある。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	4	現在、医者 の指示書がある利用者はいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	2		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	4		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		年に一回研修する機会を設け、当日参加できなかったスタッフへも後日研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			